

科目名	文化人類学（遠隔授業）	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	佐藤 若菜		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-A-1-110014	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	<p>（全回オンライン授業を行う） 自分たちにとって当たり前のこと必ずしもすべての人にとって当たり前ではないということを理解するのは決して容易ではありません。本講義では、人類学的なものの方の中心にある「自分たちにとって当たり前の前提を相対化すること」を目指します。ここからグローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しをもって向き合う実践的な態度を獲得します。毎回の講義では、文化人類学に関わる問いを投げかけます。学生が、それに対する考えをコメントペーパーに記述するといった課題解決型の授業形態を採用します。</p>				
学修到達目標	既存の概念を相対化することから、自分たちとは違った考え方や行動様式の持ち主を理解する術を身につける。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	文化人類学について
第3回	文化人類学における〈文化〉とは

第4回	「自然」な見方を問う
第5回	男らしさ／女らしさは誰が決めるのか？
第6回	血のつながりは親子のきずなの基盤となる??
第7回	血のつながりは親子のきずなの基盤となる??
第8回	どこで子供が終わり大人が始まるのか？
第9回	なぜ死は恐ろしいのか？
第10回	なぜ「きたなさ」を理由に排除されるのか？
第11回	なぜ共同体には暴力が生じるのか？
第12回	贈りものに宿るものとは??
第13回	贈りものに宿るものとは??

第14回	何が個性をかたちづくるのか？
第15回	歴史的事実とは何か？
第16回	レポート

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。事前に関連資料を調べる。
【復習】時間・内容	2時間。ノートを再読し、関連資料を調べる。

成績評価	
評価基準・方法	レポート（50%）、コメントペーパー（30%）、授業態度（20%）により評価する。
フィードバック方法	毎回、授業の最後にコメントペーパーを配布・回収し、次の授業の冒頭で質問等に答える。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）

教科書/参考書	『人類学のコモンセンス：文化人類学入門』（浜本満・浜本まり子共編、学術図書出版社）、『人類学的思考の歴史』（竹沢尚一郎、世界思想社）、『文化人類学』（松村圭一郎、人文書院）、『文化人類学を学ぶ人のために』（米山俊直・谷泰編、世界思想社）、『よくわかる文化人類学』（綾部恒雄・桑山敬己編、ミネルヴァ書房）、『ようこそ文化人類学へ』（川口幸大、昭和堂）、『はじめて学ぶ文化人類学』（岸上伸啓、ミネルヴァ書房）、『文化人類学群像』（綾部恒雄編著、アカデミア出版社）、『現代文化人類学のエッセンス』（蒲生正男、ペリかん社）、『現代文化人類学入門』（フィリップス・ボック、講談社）、『現代人類学を学ぶ人のために』（米山俊直編、世界思想社）
受講上の留意点等	本講義は、全ての回において遠隔授業を実施する。
JABEE	